

関宮 生おからキヤン♪報告書

2025年10月12日開催



開催趣旨

「関宮まちな小さな拠点」は現在、福祉健康拠点かつ観光拠点であり、地域のみなさんが第二の家として利用する「みんなの居場所」を目標に、関宮地域局に隣接する敷地において計画・整備を進めている。

2027年度のオープンに向けて、関宮の持続的取り組みである子どもをテーマに、子どもたちが元気に生き伸びる力＝「生ぢから」を育み、地域防災力を全世代で高める社会実験を、第1回関宮冒祭-生ぢからキャンプ-と題して開催する。

開催場所とプログラム内容

生ちからキャンプイベント

デイキャンプ

- ・羽釜でご飯を炊いて、豚汁を食べよう！
- ・みんなでテント・タープをはってみよう♪
- ・ろ過器をつくらって川の水をろ過しよう！

BOSAIゲーム

毛布で担架タイムトライアルやバケツリレーで競おう！

参加条件

原則、子どもを含むご家族でご参加ください。

但し、関係者と一緒にデイキャンプをする条件で、子どもの参加も可能です！

参加費

200円/1人

問合せ

関西大学環境都市工学部建築学科都市設計研究室

Mail: urban.design.lab.104@gmail.com

Tell:06-6368-0833

Check!



※イベント内容については、変更する可能性があります。

参加申し込みは右のQRコードから♪

プログラムマップ

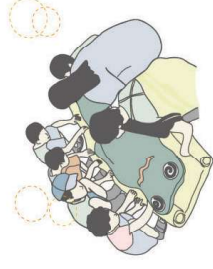


デイキャンプ

- ・11:30 ~ 14:00
- ワークショップ:
- ①羽釜でご飯を炊こう
- ②テント・タープを張る
- ③川の水ろ過体験



炊いた羽釜のご飯と
豚汁を食べよう！



BOSAIゲーム

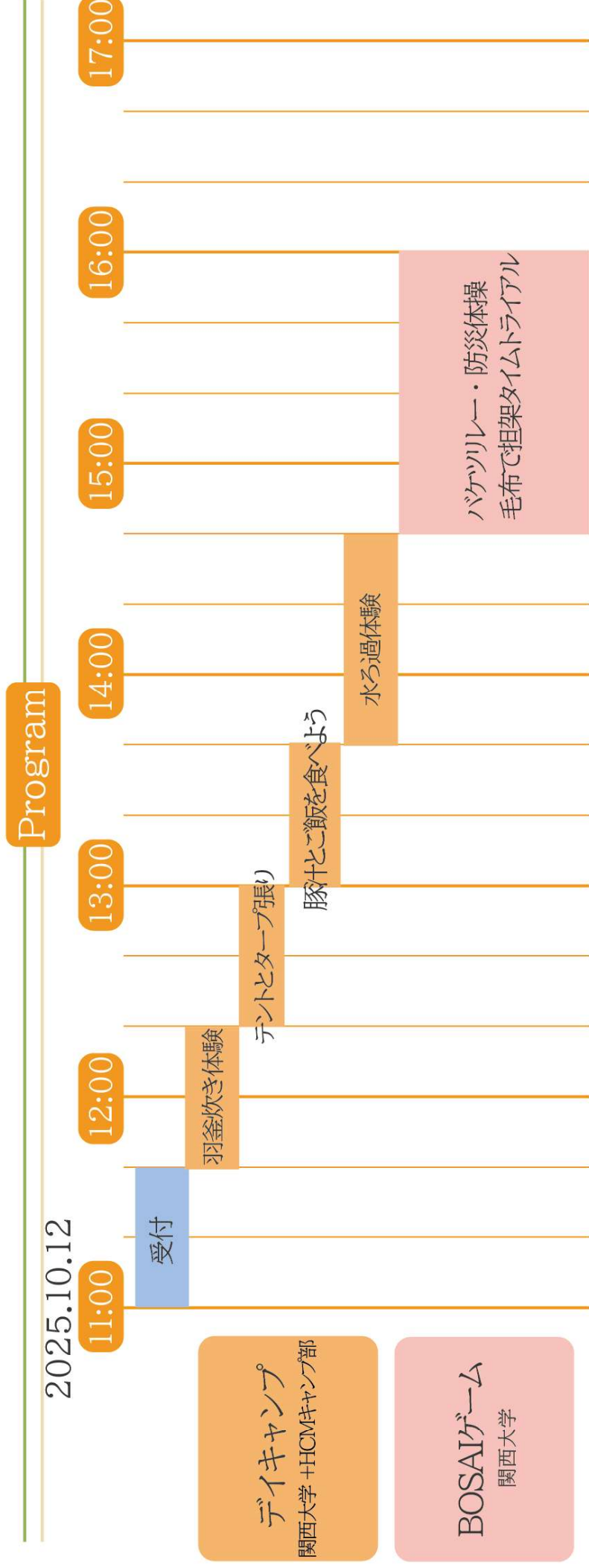
- ・14:30 ~ 16:00
- バケツリレー
- 防災体操
- 毛布で担架タイムトライアル



お願い（プライバシーと肖像の保護のため）

- ・以下の2点について、撮影およびインターネット等で公表すること（X(twitter)やFacebook、Instagram、ブログ等）にアップすることは、プライバシーを侵害することがありますので、ご遠慮ください。
- ① イベントの意見や内容 ② ほかの参加者に関する個人情報等
- ・事務局が信託録用として写真撮影します。また、撮影した写真については、イベントの実施記録として作成する報告書に記載するほか、市の広報やFacebookにアップする場合がございます。予めご了承ください。

実施スケジュール



第1回関宮冒険 国土交通省令和7年度先進的官民連携事業

生 ぢからキャンプ

みんなでお祭体験！

おいしい豚汁食べよう！

ここで遊んでみるかなー

会場 関宮ふれあいパーク芝生グラウンド

日時 2025年10月12日(日) 会場

11時受付・11時30分開演 16時30分終了

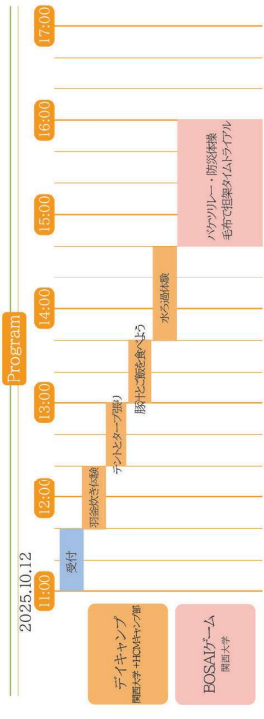
生ぢからキャンプイベント

- デイキャンプ**
 - ・羽釜でご飯を炊いて、豚汁を食べよう！
 - ・みんなでテント・タープをはってみよう！
 - ・るる器をつくって川の水をろ過しよう！
- BOSAIゲーム**
 - 毛布で担架タイムトライアルやバケツリレーで競おう！
- 参加条件**
 - 原則、子どもを含むご家族でご参加ください。
 - 但し、関係者と一緒にデイキャンプをする条件で、子どものみの参加も可能です！
- 参加費** 200円/人
- 問合せ** 関西大学環境都市設計研究室
 Mail: urban.design.lab.104@gmail.com
 Tel: 06-6368-0833

※イベント内容については、変更する可能性があります。参加申し込みは右のQRコードから♪

みんなで サバイバルを学ぼう！

BOSAI キャンプをはじめとした、さまざまなイベントを行います！



当日の注意事項

- ・参加費は1人1,500円(子供30人、大人20人)
- ・予約は10月10日午後12時までに受け付けます。
- ・A席は、関宮毎年恒例「緑の体験」中から水をろ過する体験の材料準備。B席は、阪急CMキヤンパ部と一緒でテントとタープを設けます。
- ・暑熱をへって、テント・タープを設置したら、みんなではしゃぎましょう。
- ・生ぢからキャンプを応募する方は、関宮若手部(阪急CMキヤンパ部+関西大学学生 10名程度)です。雨天の場合は、体育館で開催します。



暑い日(フライバック)と昔風の伝承のため

- ・以下の2点について、関係者はインターネット等で公表すること(X(witter)やFacebook、Instagram、ブログ等)を控えること。フライバックを撮影することはありませんので、ご遠慮ください。
- ① イベントの趣旨や内容(生ぢからの参加者)に関する報道は関係者以外に公開せず。
- ・事前の同意や許可(生ぢからの参加者)なくして写真撮影は、また、撮影した写真については、イベントの記録として作成する報告書に記載するほか、市の広報やFacebookにアップする場合があります。予めご了承ください。

主催：関宮公民館/阪急コンストラクション・マネジメント株式会社(官民連携導入可能地調査受託事業者)
 協力：関宮まちづくり協議会/関西大学環境都市工学部建築学科都市設計研究室

告知方法

〇市のInstagram

〇フライヤー配布

・関宮学園：100部

・関宮地域局：100部

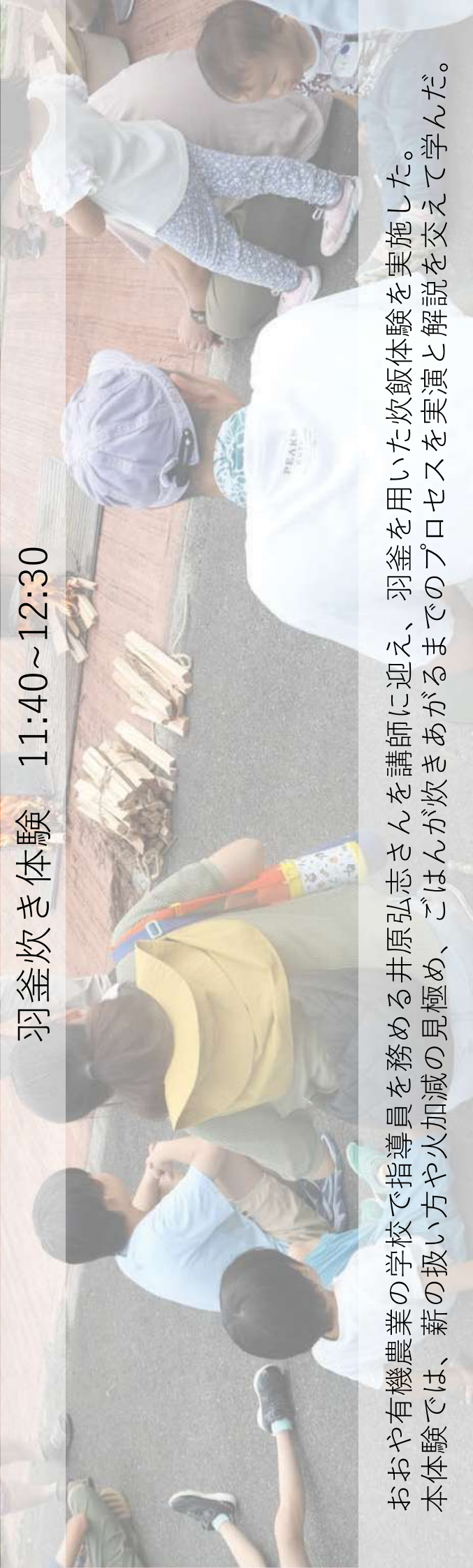
・8月31日実施の

「ふれあい祭り」にて地域住民へ配布：100部

学校・行政・地域イベントと配布先を分けることで、幅広い世代への周知を図った。



羽釜炊き体験 11:40~12:30



おおよ有機農業の学校で指導員を務める井原弘志さんを講師に迎え、羽釜を用いた炊飯体験を実施した。本体験では、薪の扱い方や火加減の見極め、ごはんが炊きあがるまでのプロセスを実演と解説を交えて学んだ。

羽釜炊き体験 11:40~12:30

好評だった点	改善点・反省点
<ul style="list-style-type: none">・初めての体験に、子どもたちは興味津々だった。・井原さんのお米に関するお話を通して、子どもたちの知識が深まった。	<ul style="list-style-type: none">・話を聞くだけでは飽きてしまい、途中で離れてしまう子がいた。



井原さんによる羽釜炊き実演



羽釜炊きについて質問タイム



興味津々でのぞき込む子どもたち



テントとタープ張り 12:40~13:00



阪急CM担当者（阪急CMキャンプ部）を中心に、子どもたちと協働してテント・タープを設営する体験型プログラムとして実施した。本プログラムでは、ロープの結び方やポールの方など、設営の基本を一つひとつ確認しながら進め、参加者が協力して空間をつくるプロセスを体験した。

テントとタープ張り 12:40~13:00

好評だった点

- ・「やってみたい」と自発的に動く子どもが多く、主体的な参加姿勢が見られた。
- ・特に男の子たちが率先してトンカチを握り作業をリードするなど、意欲的な関わりが生まれました。

改善点・反省点

- ・軍手を着用せず作業を始める子が出て、軽いけがが発生したため、安全確認と声かけを徹底する必要がある。



阪急CMさんによるレクチャー



力を合わせてタープ張り



張ったタープの下でゆったり



豚汁とご飯を食べよう 13:00~14:00

PEAKS cafe (ピークスカフェ) の平岡典朗さんが調理した豚汁と、羽釜炊き体験で井原弘志さんが炊いたごはんを、参加者全員で味わうプログラムを実施した。食事は、子どもたちと共に設置したテントおよびタープの下で行い、自分たちでつくった場の中で食事をとる体験とした。

豚汁とご飯を食べよう 13:00~14:00

好評だった点	改善点・反省点
<ul style="list-style-type: none">・羽釜で炊いたご飯の香りと味が「普段と全然違う」と高評価だった。・豚汁もとても好評で、おかわりをする参加者が多く、満足度が高かった。	<ul style="list-style-type: none">・テントの位置が離れていたため、参加者がグループごとに少し分断されてしまった。



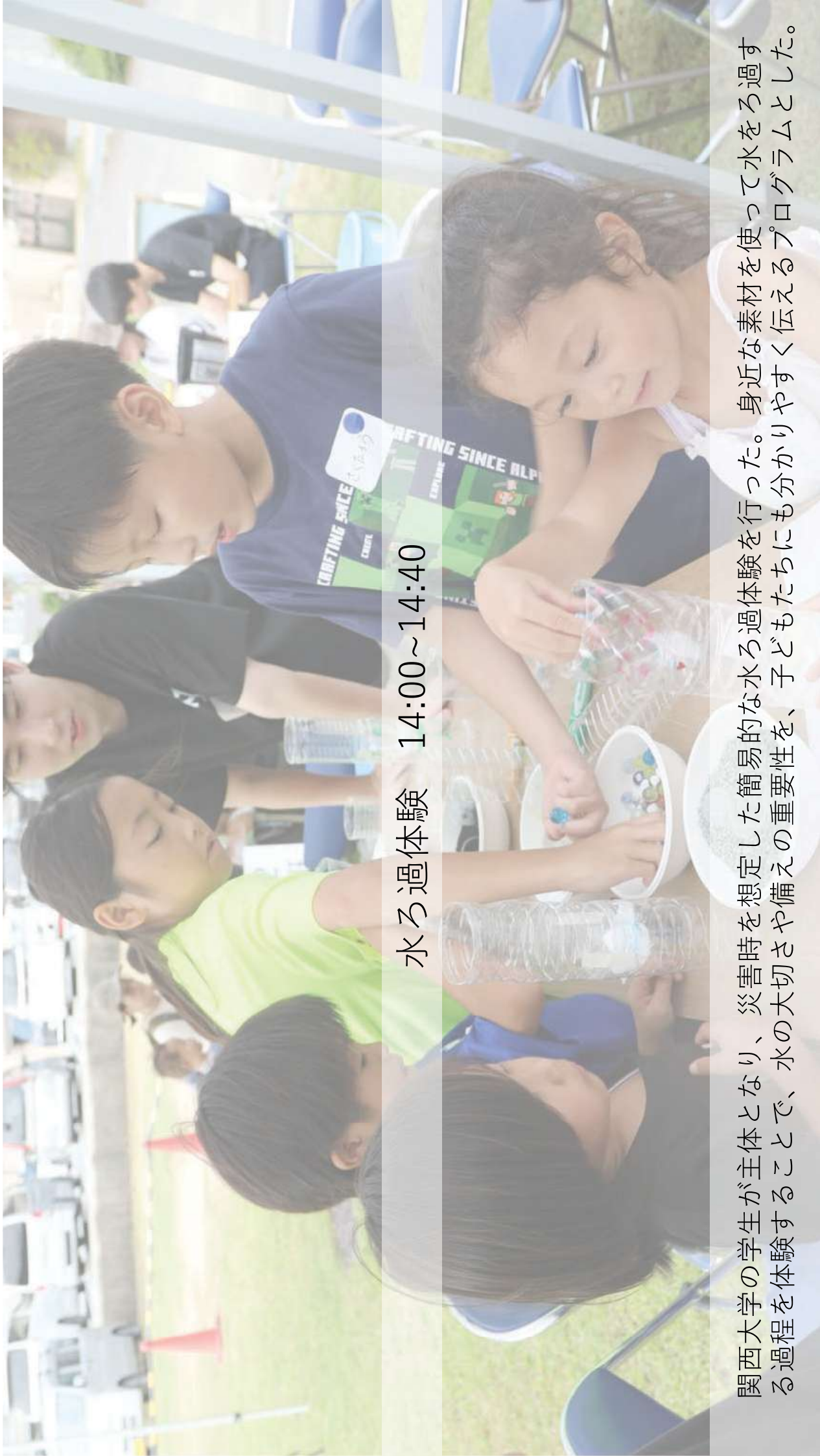
順番に並び、炊きたてのご飯とホカホカの豚汁を受け取る参加者



タープの下でいただきます



参加者同士の中も深まりました



水ろ過体験 14:00~14:40

関西大学の学生が主体となり、災害時を想定した簡易的な水ろ過体験を行った。身近な素材を使って水をろ過する過程を体験することで、水の大切さや備えの重要性を、子どもたちにも分かりやすく伝えるプログラムとした。

ペットボトル濾過器づくり (雨天時も可)

材料

- ① ペットボトル2本
- ② 脱脂綿だしめん
- ③ ガーゼ
- ④ 輪わゴム
- ⑤ ビニールテープ
- ⑥ 砂利
- ⑦ 砂
- ⑧ 活性炭
- ⑨ 泥水
- ⑩ 小石

ろ過器一つ作るのに約150円



手順

- ① 切り口にテープを張る ② 脱脂綿を詰める
- ③ ガーゼをかぶせ 輪ゴムで止める
- ④ ペットボトルを重ねる
- ⑤ 順番に素材を入れる
- ⑥ 泥水を濾す

みんなと一緒に (②~④) グループ、個人で考えながらつくる (⑤⑥)

ワークシヨップで行う部分 (③~⑥)

ワークシヨップ方法 (所要時間約1時間)



模範 (サイトに載っていた順番)

ガーゼ
砂
活性炭
砂利
小石

模範 + 活性炭 模範 元の泥水

活性炭をプラスに入れると一番きれいだった。
正解はないのかも…

・5チーム (1チーム4人) ほどで行う
上記の手順を進める

・グループ (人数によっては個人) でどんな素材どんな順番でどれくらい入れるか
考えながら作ってもらおう
(ティッシュ・キッチンペーパー・ビー玉などいろんな素材を
プラスで置いておく) (30分程)

・それぞれのチームに学生一人入りサポート

・最後に濾過後の水を並べて透明度を比べる
 (「一番ピカピカ賞」「工夫がすごいで賞」「速さNo.1賞」
 など複数の賞を作ってもいいかも)

・このままでは飲めないけど煮沸すれば飲める水になる。
 災害のときは水が大事だということを総括として伝える。



水ろ過体験 14:00~14:40

好評だった点	改善点・反省点
<ul style="list-style-type: none">・自分たちで作ったろ過機を実際のゲームで使うことに楽しみながら、取り組んでいた。・チーム全員でジャッジし合う対抗ゲームで、全体に一体感が生まれた。	<ul style="list-style-type: none">・勝敗がつく内容のため、悔しさから泣いてしまいう子もいた。





バケツリレー 15:00~15:20

関西大学の学生が進行役となり、子どもと大人と一緒にバケツリレーを行った。
災害時に役立つ水運びを、体験を通して学ぶプログラムである。

バケツリレー 15:00~15:20

好評だった点	改善点・反省点
<ul style="list-style-type: none">・体を大きく使って動く場面が多く、大人も子どもも大盛り上がりだった。・チーム全員で協力する対抗ゲームを通して、全体に一体感が生まれた。	<ul style="list-style-type: none">・勝敗がつく内容のため、悔しさから泣いてしまいう子もいた。





毛布で担架トライアル 15:30~15:50

関西大学の学生が進行役となり、防災人形とペットボトルを重りとして用いた毛布担架のタイムトライアルを実施。遊びの要素を取り入れながら、災害時の搬送行動や助け合いの大切さを理解する防災体験プログラムである。

毛布で担架トライアル 15:30~15:50

好評だった点	改善点・反省点
<ul style="list-style-type: none">・体を大きく使って動く場面が多く、大人も子どもも大盛り上がりだった。・チーム全員で協力する対抗ゲームを通して、全体に一体感が生まれた。	<ul style="list-style-type: none">・体格差から歩幅が合わずこけてしまう子供がいた。・勝敗がつく内容のため、悔しさから泣いてしまう子供もいた。



関西大学の学生が実演を交えながら、やり方を説明



みんなで作戦会議



大人と子どもにも分かれてスタート



防災体操 16:00~16:20

関西大学の学生が進行役となり、防災体操を実施した。
本プログラムでは、地震発生時に身を守るための知恵や動作を、体操を通じて分かりやすく学ぶことを目的とした。

防災体操 16:00~16:20

好評だった点	改善点・反省点
<ul style="list-style-type: none">・大きな声を出し、体をめいっぱい使って楽しむ姿が多く見られ。・養父市公認ゆるキャラの「やっぴー」「やっぴー」が最後のジャージを担当し、和気あいあいとした雰囲気プログラムを締めくくることができた。	<ul style="list-style-type: none">・音楽を流すためのコンピュータ準備が遅れ、開始までの進行が遅れてしまった



関西大学の学生を見本に、みんなと一緒に防災体操



やっぴーやっぴーも一緒に体操



ペアになって体を動かしました

調査名

生ぢからキャンプ参加者アンケート

実施目的

- ・ 生ぢからキャンプの満足度把握
- ・ 今後の運営改善および企画検討の参考
- ・ 「小さな拠点整備事業」への認知・関心度の把握

調査方法

- ・ Googleフォーム
- ・ 所要時間：3～5分
- ・ 回答者：参加者代表（保護者）
- ・ 一部設問はお子様の回答あり
- ・ 修了書と合わせて送付

参加人数

計7組・27名
子ども：15名／保護者：12名

アンケート回答数

回答数：4組
回収率：約57%

参加者構成の特徴

小学生を中心とした親子参加
特定年齢層に偏らず、複数世代が関わる場となった

質問項目

①全体満足度と実施環境の評価

1. 全体満足度
 - ・「生ぢからキャンプ」に対する満足度（5段階評価）
2. 会場・設備評価
 - ・環境・設備・食事等の快適さ（5段階評価）

②印象に残った体験内容

3. 印象に残ったプログラム（複数回答可）

【保護者】

- ・羽釜炊き体験
- ・テント・タープ張り
- ・豚汁とご飯づくり
- ・水ろ過体験
- ・バケツリレー
- ・毛布で担架タイムトライアル
- ・防災体操

【お子様】

- ・同上プログラムより選択

③事業理解・関心の変化

4. 小さな拠点整備事業の認知度
 - ・知っていた
 - ・名前だけ聞いたことがある
 - ・知らなかった
5. 生ぢからキャンプを通じた関心変化
 - ・関心が高まった
 - ・あまり変わらない
 - ・すでに知っていた

④今後の参加・活用意向

6. 今後参加してみたいプログラム
 - ・スポーツ体験イベント
 - ・ワークショップ
 - ・健康づくりプログラム
 - ・マルシェイベント
 - ・その他（自由記述）
7. 拠点の今後の活用イメージ（自由記述）
8. 次回開催時の参加意向
 - ・予定が合えば参加したい
 - ・参加しない

⑤運営改善・評価コメント

9. 改善点・気になった点（自由記述）
10. スタッフ・企画チームへのメッセージ（自由記述）

アンケート回答数

回答数：4／7組（保護者4人・子ども7人）

回収率：約57%

1. 「生ぢからキャンプ」に対する全体満足度（5段階評価） ：4／4組が「とても満足」



体験内容・運営ともに高い満足度を獲得し、
初回実施として一定の成果が確認できました。

2. 環境・設備・食事等の快適さ（5段階評価） ：4／4組が「とても満足」



環境面が体験の質を下支えしており、屋外活動における
安全性・快適性の確保が評価された。

3. 印象に残ったプログラム（複数回答可）

	保護者	子ども
羽釜炊き体験	2	0
テント・タープ張り	2	1
豚汁とご飯づくり	2	1
水ろ過体験	3	1
バケツリレー	3	3
毛布で担架タイムトライアル	3	0
防災体操	2	1

保護者・子どもともに「バケツリレー」が最も印象に残った

体を動かしながら協力する要素が強く、楽しさと学びを感じられる体験となったことがうかがえる。



保護者からは、羽釜炊きやテント・タープ張りへの評価も高い

日常生活や防災につながる実践的な内容が、印象に残る体験として受け止められている。

子どもからはシンプルでわかりやすい体験が人気

「バケツリレー」など身体を使ったシンプルで分かりやすい体験が人気となったことがうかがえる。

4. 小さな拠点整備事業の認知度

- ・知っていた
- ・名前だけ聞いたことがある
- ・知らなかった

：4／4組が「知っていた」

5. 生ちからキャンプを通じた関心変化

- ・関心が高まった
- ・あまり変わらない
- ・すでに知っていた

：3／4組が「関心が高まった」

1／4組が「あまり変わらない」



高い事前認知

事前認知は100%であり、「小さな拠点整備事業」が地域内で一定程度共有されているテーマであることが確認できる。

関心喚起への効果

参加者の75%が「関心が高まった」と回答しており、キャンプ体験が事業への関心喚起に有効に機能したと考えられる。

高関心層の存在と次段階への可能性

「あまり変わらない」と回答した層は、もともと関心や知識が高かった可能性があり、否定的評価とは言えない。今後はこの層に対して、より具体的な関与（参画方法・役割提示）を示すことで次段階へつなげられる可能性。

住民参加型プログラムの有効性

認知にとどまっていた事業について、参加を通じて関心が高まったことが確認され、住民参加型の取り組みが関心喚起に効果的であることがうかがえる。

6. 今後参加してみたいプログラム（複数回答可）

	保護者
スポーツ体験イベント	3
工作ワークショップ	4
健康づくりプログラム	1
マルシェイベント	1
その他（自由記述）	0



体験型プログラムへの高い関心

今後参加してみたいプログラムでは「スポーツ体験イベント」「工作ワークショップ」の回答数が多く、体を動かす体験型・親子でできる参加型プログラムへの関心が高いことが読み取れる。

日常の利用への可能性

健康づくりやマルシェといった日常性のあるプログラムにも一定の関心が示されており、継続的な利用の可能性がうかがえる。非イベント時も含めた日常的な拠点活用のポテンシャルがある。

多世代交流への期待

自由記述では特定の世代に限定しない開かれた拠点像が共有されており、多世代交流の場としての期待がうかがえる。

高い再参加意欲と運営課題

次回開催については全組が「予定が合えば参加したい」と回答しており、参加意欲は高い。今後は開催時期・頻度・告知方法の工夫が参加拡大に重要。

7. 拠点の今後の活用イメージ（自由記述）

- ・老若男女みんなが楽しめる場。
- ・行きたいと思える場。

8. 次回開催時の参加意向

- ・予定が合えば参加したい
- ・参加しない

: 4/4組が「予定が合えば参加したい」

9. 改善点・気になった点（自由記述）

解答なし

10. スタッフ・企画チームへのメッセージ
（自由記述）

・すごく盛り上げてくださった運営陣のみな
さん！
ありがとうございます！親子共々楽しい時
間を過ごさせて頂きました。地域の繋がりがりっ
てやっぱり良いものですね！

・とても楽しかったです。また参加したいと
思います。



運営面への高評価

改善点に関する指摘が見られなかったことから、運営面に対する大きな不満は確認されなかつた。全体としてスムーズな進行と適切な運営体制が整っていたと評価できる。

継続参加への期待

スタッフ・企画チームへの感謝や再参加意向を示す声が寄せられており、単発のイベントにとどまらず、継続的な参加につながる可能性が示唆される。

アンケートとあわせて送付した修了書

例

生ぢからキャンプ修了証
様

あなたは第一回関宮冒険祭生ぢからキャンプで仲間とともに挑戦し、自然と向き合い見事“生ぢから”を身につけました。

2025年10月12日
関宮公民館

全体写真

家族写真

当日の写真を使用した修了書を一人ひとりに作成し、アンケートとあわせて後日参加者へ送付した。

体験の記憶を振り返るきっかけとするとともに、アンケート回答への動機づけを図った。

やっぶー・やっぴーの着ぐるみ利用



全体集合写真より



プログラムの合間の撮影タイム



子どもたちに手を引かれるやっぴー

兵庫県養父市の大人気ゆるキャラ「やっぶー・やっぴー」の着ぐるみを市よりお借りした。その存在自体が場の雰囲気や和らげ、子どもたちの参加意欲を高める役割を果たした。プログラム全体の一体感を生み出す重要な要素となった。

今後に向けた課題と改善の方向性

① アンケート回収方法の改善

アンケートを事後回収としたことで、回収率が十分に確保できなかった。

→次回以降は、イベント当日にその場で回答できる仕組みを導入する。

② 開催日程の調整

開催日が地域のお祭りと重なっていったため、参加者数に影響が生じた可能性。

→今後は地域行事との日程調整を行い、より参加しやすい開催日設定を検討する。

③ 振り返り体制の強化

当日の気づきや参加者の声を十分に拾いきれなかった点が課題として挙げられる。

→簡易ヒアリングやメモ共有など、運営側の振り返り方法も整備する。

④ 広報・周知の拡充

イベントの情報が届く層が限定的であった可能性がある。

→今後は早い段階で学校・地域団体・SNS等を活用し、事前周知の幅を広げる。

⑤ プログラム間の連動強化

まちづくり協議会の午前中のプログラムとの連動性が十分ではなかった。

→関係者間での事前調整・情報共有を強化し、プログラム間の連動性を高める。

実施体制と関係者

【主催】

関宮公民館/阪急コンストラクション・マネジメント株式会社（官民連携導入可能性調査受託事業者）

【協力】

関宮まちづくり協議会/関西大学 環境都市工学部 建築学科 都市設計研究室

■ 運営体制

本イベントは、多様な主体の協力のもと実施した。

おおよや農学校の井原弘志氏、ピークスカフェの平岡典朗氏、

阪急コンストラクション・マネジメント株式会社の社員の皆様（キャンプ部）がプログラム運営に
参画した。また、消防団より防災人形および担架用の棒の貸与を受け、地域局からは資材の貸与、
広報の協力を得た。

関西大学からは学生6名が参加し、当日の進行および運営を担当した。

■ 参考とした取り組み

NPO 法人プラス・アーツ「イザ！カエルキャラバン！」の防災マニユアル